

開発の経緯と目的

博多港コンテナ貨物量の増加により慢性的なゲート混雑に陥るハード面での対策を講じたものの、目立つほどの解消には至らず混雑要因の分析を行ったところ

「情報の共有化不足による混雑要因」が判明



関係4団体が、情報共有のためのインターネットを活用した

・輸入貨物の関するターミナル情報の開示システム

・輸出入貨物の事前予約システム

の開発で合意

2000年11月、HiTSが完成し、供用を開始

point 1

迅速な情報把握で
顧客サービス向上

point 3

セキュリティ
機能の向上

point 2

配車の効率性が
UP

point 4

ペーパーレス化実現、
社内システム構築

管理・運営

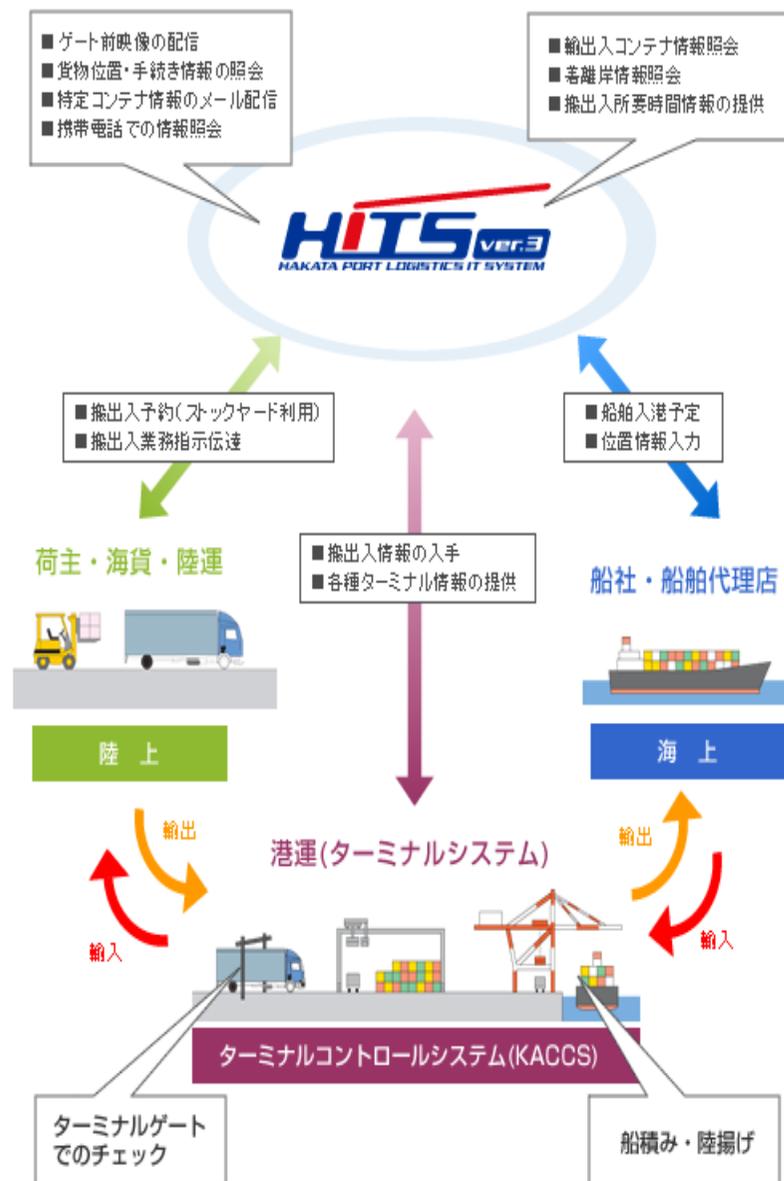
管理者・運営者＝博多港ふ頭株式会社

利用料金＝~~すべて~~無料(ただし、リライトカードは1枚300円)

導入後の維持更新＝平成15年(Ver.2)、大規模更新

平成22年(Ver.3)、海外港湾との連携

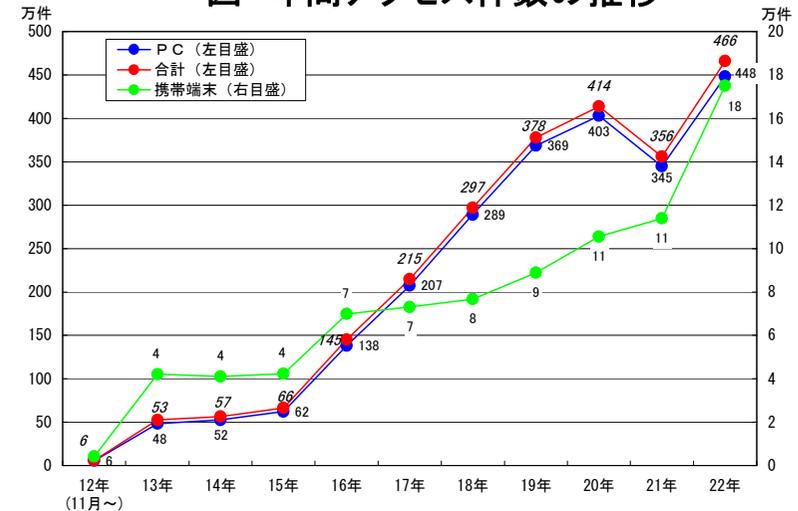
HiTSシステム機能概要



利用状況

実績＝トレーラー1日1,800台に対してアクセス件数1日18,000件
 利用対象＝博多港のすべての利用者(荷主・船社・海貨・陸運・・・)
 利用条件＝インターネットが利用可能
 リライトカードの購入(ドライバー)
 トレーラーヘッドにID(5桁)表記
 メリット＝ゲート混雑の解消、コスト削減、リードタイム短縮ほか多数
 デメリット＝利用にあたっての僅かな初期費用の負担
 (リライトカード購入費・IDステッカー作成費)

図 年間アクセス件数の推移



今後の展開

SCMの情報の穴を埋めるため、以下の取り組みを図りたい

- ・海外連携港湾の拡大
- ・国内港湾相互の情報連携の推進

システム概要

【主な機能】

- インターネットを通じ、博多港内のコンテナの位置や通関などの手続き状況、ゲート待ち時間などの情報を提供。
- 物流関係者間で作業情報の指示・伝達など、物流の効率化・迅速化に必要な情報をリアルタイムに把握できるサービスを提供。

【導入効果】

- ①関係事業者間で業務情報を共有、顧客サービスや作業効率性が大幅に向上
- ②貨物セキュリティの向上

トップページ



【機能紹介】

①輸出入コンテナ情報照会

コンテナに関する情報をリアルタイムで把握可能

＜取得可能情報＞

基本情報＝コンテナサイズ、空返却場所など

本船情報＝船社、船名、仕出港など

位置情報＝着岸・搬出入時間など

※海外港湾との貨物追跡機能

広州港(黄埔、南沙)、深セン(赤湾、蛇口)の4つのCTにおける最新のコンテナ情報を確認可能(30分ごとに更新)



⑤輸入ステータス配信機能

コンテナ番号あるいはBL番号をあらかじめ登録することにより、ユーザーが必要とするステータスの変化をメールで配信

②着離岸情報照会

スケジュールが変動しやすい船舶動静をリアルタイムで確認可能

＜取得可能情報＞

運航船社／航路／入港日／着岸時刻ほか



④事前情報入力機能

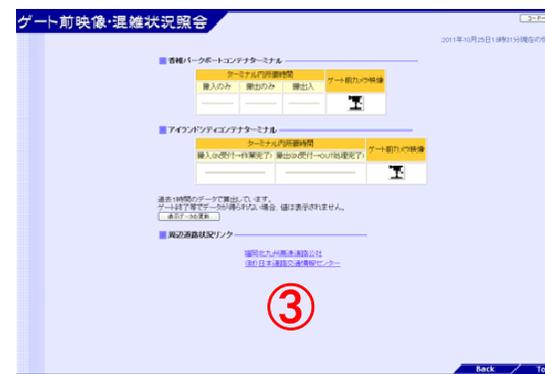
貨物搬出入時に必要となる情報を事前にインターネットから入力
ゲート受付時間の短縮とセキュリティの強化を実現

⑥シャトル予約

オフドックヤードを利用していた時代のシャトル輸送予約システム
現在、オフドックヤードは利用休止
将来の再利用に備え、機能は維持

③CY混雑状況・映像

ゲート前映像をリアルタイムで表示し、ターミナルの混雑状況を確認可能



ログイン

